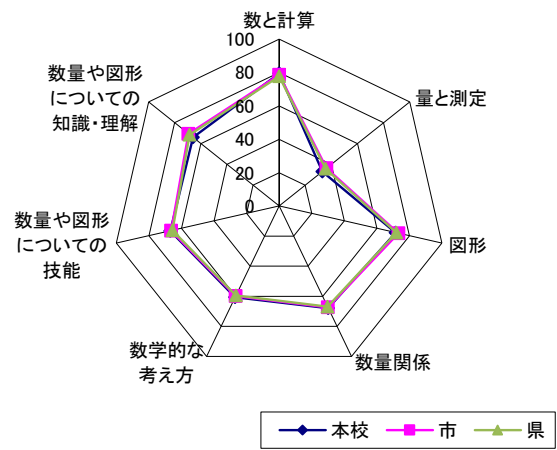


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.4	78.6	77.7
	量と測定	33.2	36.3	35.7
	図形	71.6	73.3	72.1
	数量関係	67.9	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	60.7	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	66.8	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	65.9	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均と比べてやや高い。 前年度は県平均より低かったが、今年度は県平均を上回った。 ○小数－小数の計算はよくできている。 ●小数点以下の数の大小の判別が乏しい。 ●文章量が多いと読んで把握することができなくなるなど、文章問題の内容理解に課題が見られる。	・小数の比較をするときには、数直線を書いて数字を書き込むことで数の仕組みを図で分かるように指導する。 ・数字の並び替え学習を取り入れ、数の大小について考えさせる。 ・様々な文章問題を解き、文章の読み取りに慣れさせるとともに文章が長いことは解くためのヒントが多いことを理解させ、ポイントとなるところが分かるよう線を引く学習を繰り返す。
量と測定	平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。 前年度と比べると県平均との差は縮まった。 ○図をもとに180°より大きな角度の求め方を説明することがよくできている。 ●1㎡が1cm ² 何枚分かを求めることに課題が見られる。1㎡は100cm ² を活用し、縦×横の計算で求めることができない。	・実物を示して触れさせたり、数えさせたりすることでこの数字はこれくらいの大きさだと予想できる面積の量感を育てる。また単位の関係性を再確認することで暗記ではなく、単位の変換を計算で求めることができるようにする。 ・身の回りのものを使っておよその面積を求める活動を取り入れることで、量感を育む。
図形	平均正答率は、県の平均と比べてほぼ同じである。 ○展開図から向かい合う面を見つけたり、頭の中で展開図を組み立てたりすることがよくできている。 ●図形の性質を意識していないため正しく平行四辺形を書くことができない。	・図形の性質を忘れてしまったり意識できていなかったりする傾向が見られるので定期的に振り返る学習をする。また、使用してよい道具を限定した作図をさせることで、図形の性質を意識できるよう指導する。 ・三角定規やコンパスの使い方の練習をする。また、三角定規やコンパスの特性を理解させ、効率の良い作図について考えることができるように指導する。
数量関係	平均正答率は、県の平均と比べてほぼ同じである。 前年度は県平均より低かったが、今年度は県平均を上回った。 ○提示された折れ線グラフの中でどこが一番変化が大きいのかという読み取りがよくできている。 ●表から関係性をつかみ、それを式に表すことができない。文字を使った式に対して課題が見られる。	・学習の中で表が取り上げられたときには”同じように変化をしているところはないか”、”規則的な変化をしているところはないか”などの変化の特徴を見つける学習を繰り返す。 ・式の中で文字を使うことに苦手意識を持つ児童が多い。文字は数字の代わりであることを十分に抑えた上で立式させたり、出来上がっている数字の式を反対に文字の式に変換したりする学習を行う。